

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	福祉支援工学分野
学籍番号		院生氏名	千代丸正志
通学キャンパス			
論文題目	加齢変化が自然立位時の体幹及び下肢関節角度変化に与える影響 —高齢健常男性と若年健常男性の比較—		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>【博士論文の概要】 千代丸氏の博士論文の概要は、次の通りである。 立位時の身体動揺は基礎的な平衡機能を反映する。高齢者は平衡機能の低下により立位時の運動戦略を変化させることが考えられる。しかし、臨床現場で多用される足圧中心位置による身体動揺の計測では、運動戦略を明らかに出来ないため、身体各部位の角度変化を定量的に示すことが求められる。本研究の目的は、立位時に生じる身体動揺に着目し、高齢者と若年者の姿勢制御の違いを運動学、運動力学的分析により明らかにすることとした。対象は健常若年成人男性30名と健常高齢男性30名とした。三次元動作解析装置を用いて分析を行った。膝関節を含めた全ての下肢関節が立位制御に関与していることが明らかになり、高齢者の遅い下肢各関節角速度は、骨盤や胸郭の角度変化に影響を与えることが示された。また、高齢者は静止立位においても股関節戦略を用いることが明らかになった。高齢者の体幹の角度変化は、胸郭と骨盤を同方向に角度変化する対応をとることが示された。</p> <p>【研究方法(倫理)と論文の構成】 研究方法は三次元動作解析装置のデータを中心に、条件ごとに適切な分析方法で検討が進められている。また、研究は国際医療福祉大学の倫理委員会の承認および文京学院大学の倫理委員会の承認のもと実施されており、倫理的配慮に問題はない。論文の構成は、多くの研究データの分析を丁寧に分割し論述している。</p> <p>【研究の新規性について】 本研究の新規性は、高齢者の立位制御の特徴を立位時に生じる身体動揺から分析した点にあり、日本における高齢者の健康増進および介護予防に貢献する研究として高く評価できる</p> <p>【審査経過と口頭試問の結果】 3名の審査委員全員が出席のうえ、平成28年12月5日に審査会を開催した。審査員からの指摘事項に対して博士論文の修正を求め、適切に修正された。口頭試問に対しても適切に応答した。</p> <p>【合否判定】 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 西 田 裕 介</p> <p>副 査 前 田 眞 治</p> <p>副 査 新井田 孝 裕</p>		